

會に入りたる者ありしあり。

山内みよの底護者たる為、~~其~~某は奥と曰ふに  
雨婦人の誤解互見を経験せしむることは婦人  
厨動の上より見れば甚く善からざることを考へ  
之日頃二三度雨婦人と自定へ招きて了解を求  
めたり其結果果婦人は自分等の思想の甚く相  
似たりしあり相互に手を取りと社會運動を支  
さへきことを約し山内みよは大塚へ行きて青  
社と經營を一つ、~~其~~其法動の事業地を作りつ  
たりせしむつた。

奥にみよは七月頃には市會議に出席の應接授  
演説に於ては、大塚、~~其~~其法動の事業地を  
場、の演壇に立ちたり又之れ單に依頼に應じて  
長蘆志を振へたり、~~其~~其法動の事業地の上  
り見せし法意を挿し親の友のよきはあし。  
十一月末頃より十二月の中頃まで奥は山内の  
招きに應じて下阪し高柳を以て新人會の人々  
と共に見聞の政治的組織攻撃しあはれし  
演説をあれ、大塚に於ては九津見、~~其~~其法動の  
四郎等と會見芝鳴に大塚、~~其~~其法動の